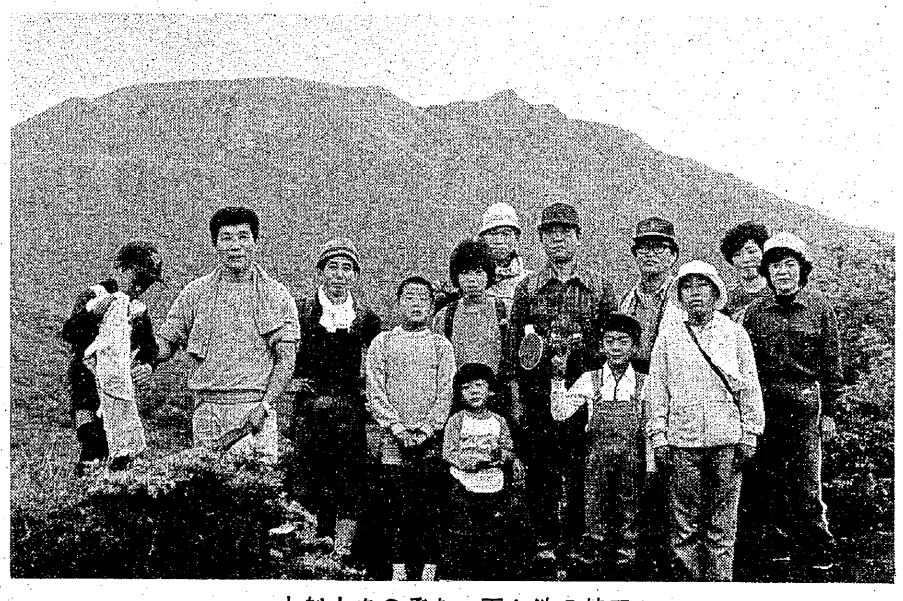
広がるミヤマキリシマ

家族連れで民主的に

―サブザック・クラブが九重へ―



大船山をのぞむ、雨ケ池の峠で

みいけ「サブザック・クラブ」は、六月九日の夕方から十日にかけて、大分県の大船山（一、七八七メートル）登山を行いました。

キャンプや日帰りの行事も含めて、家族ぐるみで楽しく過ごす取り組みですが、大人も子供も、また一味ちがった社会体験ができる機会として、大変喜ばれています。

当日は、出発まぎわにあいにくの雨模様となったので、阿蘇の『山の家』に落ち着くことにして、その夜は天候のことなど忘れてしまったかのように、自炊交流会ではみんなだべったものです。

翌朝八時出発頃には、なんとか曇り空も見えたので、『山の家』の老夫婦に手厚いもてなしのお礼を述べて、行動を開始しました。

長者原―雨ケ池―坊がつる経由での大船山へのコースは、火山灰の黒い泥土が行く手を阻むことしばしば。靴やズボンの裾をいろどったが、子供たちも元気よく登っていった。

九時三十分。登山開始から一時間十分で、うすむらさきのミヤマキリシマが山々に広がる雨ケ池の平原を目の前にした時は、みんなの表情もいちだんと明るくなった。

山道での出来事は、意外なところへ焦点を合わせてくれる時もあります。雨ケ池から坊がつるへ向かっているとき、子供連れのご夫婦が私たちに帰りの道を尋ねられたので、ていねいに聞いてから、同じ方向だから「いっしょにどうですか」とグループの一人が言ったことが、特別のことのようにうれしかったとみえ、それからはいっしょに来ているような感じでした。

みんな初対面の人たちばかりなのに、どこの人たちだろうと不思議に思われていたそうである。話の中で、昨年の県知事選挙で『奥田さん』を当選させるためにお互い頑張ったことなどが出て、働く者として意気投合しました。

この出会いを通じて、どんなにかよい思い出を残したことだろう。

いまも残る喜び

今回の取り組みをふり返ってベテラングループのMさんは、日常の教育の中では過保護になってしまう子供も、いつもの子供と違う力強さを持った姿で自分の前にいることを発見した喜びや、なんといってもみんなが民主性を発揮して、よりよい方法を決めて集中したことが成功につながったことなどを話してくれました。

時間が十分でなく、疲れている子供たちや婦人の気持ちも汲んで大船山には登らなかったのですが、リーダーたちの陰の努力が実って、一人の事故者もなく、無事登山を終えたことは、参加者全員の喜びとしていま残っています。

（黒田勝儀・記）

7月のこよみ

○…ふみつき。一日は海・山開き。七日は七夕。九日浅草観音などでほおずき市。十五日は中元で、八月七日の立秋までが「暑中見舞」、それ以後が「残暑見舞」となります。立秋の前の十八日間が土用で一年中で一番暑い時とされ、この間の丑の日が土用の丑で今年は七月三十日です。うの字のつくものを食べると体に良いといわれています。

○…例年岩手県沖ぐらいまでしか南下しない親潮が銚子沖まで達し、三～五月にかけて平年より三～五度も気温が下がりました。肌寒い六月を経て七月も曇りや雨の日が多く肌寒くなりそうです。東日本では大雨のおそれも。暑い日が多くなるのは西日本を中心に七月下旬から。

○…蚊が活躍する季節です。蚊は落葉にたまった水からも発生するそうです。週に一度水のたまりやすい場所に殺虫剤を。下旬ごろの梅雨あけは衣類につく虫の産卵期です。防虫剤を点検しましょう。土用干しの季節です。寝具は日にあて、革製品は陰干しに。

海見

古稀をこえて

緑ケ丘　猿渡　ハギエ

「三池の火を全国に広げよう」「三池に学ぼう」を合言葉に、今年もたくさんの婦人の仲間が三池を訪れました。私も三人の仲間と二泊三日を共にして、寝食はむろん、語り合い学び合うことができましたが、限られた時間でしたので、今後の文通を約束し、機会があればまた会うことにして別れることになりました。

北海道から参加された金林野の吉田さんは「古稀を迎えました」と話されました。私が一番の年配者だと思っていましたら、年長者が参加されて「ワタシ負けました」ではなく、少しばかり若い私もがんばって学び、そして三井資本とたたかっていこうとあらためて思いました。

婦人集会がありますと、大牟田、荒尾両県内はまなぶの鉢巻をしめて、まなぶのジャンバーを着た人びとが往来します。すると街行く人も、「もうそんな季節ですか」と話しかけてくれます。十二回におよぶこの集会も、一般市民の人たちにも印象づけたものですね。

昨今は交通費も高くなりました。文明の利器を利用しようとすれば、時間かけずに金かけてとなって、カンパ活動も大変だったろうと思います。職場での苦悩や地域での活動もきびしい中で、たくさんの困難を乗り越えて来られたものです。これまでの仲間と同じように、一緒に語り合い学び合って、明るい社会作りをめざしてがんばりましょう。

遠路をお疲れさまでした。いつの日かまた会えることを楽しみにしています。

×　×

『三池の主婦の手記』についてのお便りが寄せられていますが、逐次ご紹介させていただきます。

暮らしのヒント

カビとり

壁、たたみなどにフワフワしたカビが生えたら、逆性石けん水でしぼったボロ布で拭きとり、ボロ布は紙袋に入れて焼却に出します。カビの胞子を吸い込むとぜんそくや鼻炎を起こしたり、肌につくとかゆくなる人もいます。そっと拭いて散らさないようにします。

市販のカビ取り剤、カビ防止剤の中には安くてよいもの、使いやすいものもあります。

ニュースの目

結局、貧乏人は損

金利自由化　暮らしはどうなる？

Q　二～三年後に金利が自由化されると言われていますが、どういうことですか。

A　貯金に利子がつきますね、その利率を個々の銀行が自由に決めるということです。現在は日本銀行の公定歩合を基準に、普通預金や定期ものの利子は一律に決まっていますが、それを自由にしようというわけです。

Q　そうすると私たちは高い利子の銀行を選んで預金すればいいわけですね。

A　そうです。しかし金利が自由化されるのは当面一千万円単位の大口預金だけで、全ての預金金利が自由化されるのは後になる予定です。

Q　銀行は預金獲得のため利子を高くするよう競争するから、私たちにとっては得ですね。

A　そうともいえません。競争が激しくなるのは事実ですが、それは力のある金融機関中心の金融再編が進むことを意味します。一時期は金利をあげる競争になるかもしれません。しかし、金融機関の統廃合が進むと、金利カルテルができ、預金者に不利に働くことも考えられます。

Q　なるほど。

A　それに、銀行は大口の預金を獲得するために利子をあげようとしますが、それではもうけが薄くなりますから、貸出金利もあげるでしょう。特に手間ひまのかかる住宅ローンなどが真っ先にねらわれるでしょうね。それから、中小企業への貸出金利もあがるでしょうね。

Q　結局大企業や金持ちは得するけれど、多くの国民や中小企業にはとんでもないことになりかねないということですね。

A　アメリカを中心に、日本の金利の自由化を求める声が強く、国際的な流れからも、自由化はやむを得ないというのが多くの見方です。しかし、これを国民や中小企業、中小金融機関の犠牲の下に推進させないよう監視しなくてはいけません。

Q　金利が高いうちはいいけれど、大きく下がったりすると人生設計が狂いかねませんね。

A　そうです。今後金利は景気や国際情勢を敏感に反映するようになりますね。〔連合〕

七月の園芸

十四分会　田上　勇

もみじ・狸々野村

モミジの葉刈り

この頃になるとモミジも成長をおえる頃です。葉刈りは今が良く、面倒でもハサミで葉柄から切り取るのが安全です。葉を先の方に向かってスグリ取るのもよいでしょうが、小枝の先など引き抜く場合があります。やがて葉が出てきますが、同じ大きさに出揃い、秋の紅葉も見事になります。なお、古木は一年おきぐらいに。弱った盆樹はやらない方が安全です。

ツバキ、サザンカの挿し木

七～八月が適期です。今年伸びた新芽が、淡い褐色に固まった、充実したものを七～十センチぐらい葉を四枚ぐらいつけて切り、四時間ぐらい水あげして、三～四枚目で切り、三枚目の葉をおとして挿します。用土は清潔なミジンを抜いた排水のよいものに、三分の一ぐらい挿します。

水をたっぷり与え、風当たりの少ない日陰に置き二週間ぐらいしたら少しずつ日光に当てるようにします。

花芽をつけるコツ

花芽をつける時期は六月下旬～八月中旬と言われています。花芽分化が行なわれるためには種々の条件があります。第一に花芽分化期までには十分栄養をつけておく。（だからといって多肥は危険）②花芽分化期はよく日に当てること。③同時に灌水を少なくし、乾燥ぎみにすることなどです。つまり七月まではたっぷり肥培しておき、七月下旬～八月中は肥料は与えず節水して新梢の発育をおさえるようにします。このように花芽分化が夏に集中していることは、いかに日照条件が深く関係しているかがわかると思います。

潅水について

梅雨どきは雨が多いから、鉢の中は水だらけと思っていると大変で、雑木盆栽などは葉がしげっていて思うように鉢内に水が回らない場合があります。また、吸水の悪い鉢物などは、ハシなどを使って数カ所穴をあけ、その中に水はけのよい山砂などを入れて水の通りをよくしてやります。また、ボケ、花カイドウ、リンゴなど植え替えしないで目づまりしているものは、一回り大きい鉢に引き抜いて植え替えます。底に荒いものを入れ、回りも排水のよいもので植え込み、秋に根を切りつめて植え替えます。

病気と害虫の消毒も忘れずに実施しましょう。